

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100050		
法人名	特定非営利活動法人 いい日の里		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字棕野1338番地5		
自己評価作成日	平成28年12月25日	評価結果市町受理日	平成29年9月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様家族のニーズに合った家庭的で心温まる介護、家族間の連携を大切に努めています。併設のデイサービスや小規模多機能サービスの利用者様と交流を持ったり行事に参加したり、他者との交流を持てるようにしています。月1回の誕生会も職員手作りの雰囲気を大切に利用者様に喜んで頂けるよう心がけています。利用者様の健康を第一に考え、まずは食からという事で食事には特に、心を配っています。毎朝、地元の朝市で新鮮な野菜を買い求め、バランスのとれた少量で品数の多い副食を色とりどりで提供させて頂いております。食事は楽しみの一つとして、見て楽しく食欲増進できるような旬な食材を取り入れ、多彩な献立を日々考えています。利用者様が食事で元気になられており、ご家族様からも高い評価を頂いております。1日3食を真心こめた手作りの品で提供させて頂いております。

食事は、管理者が利用者の希望や好みを取り入れられて献立を立てられ、法人の畑で採れた野菜や地域の人から差し入れられた野菜や果物、魚など新鮮で旬な食材を利用して、法人の厨房で調理されたものを三食とも提供されています。品数を多く小さな食器に盛りつけられて、栄養バランスが取れ、見た目もおいしく食べられるように工夫されています。数人で個別の外食に出かけられたり、バーベキュー大会で利用者、家族、職員と一緒に食事を楽しむことができるよう取り組まれています。職員は月1回の法人全体ミーティングや申し送りの他、日常業務の中で数名の職員が必要に応じてその都度ミニミーティングをされ、意見を反映されて運営改善に向け取り組んでおられます。利用者が喜びや張り合いのある日々が過ごせるように楽しみごとや活躍できる場面づくりをされて支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者をはじめ職員全員で事業所理念の作成に取り組んだ。職員が理念を共有し実践に繋げていけるよう努力している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を、職員で話し合っって新たに作成している。理念を事業所内に掲示し、管理者と職員は共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周囲の地域住民の方とは挨拶や会話を通じて交流を深められるよう心掛けている。地域の行事がある時は出来るだけ参加するようにしている。週1回のパン屋での買い物や法人のデイサービス利用者との交流も日常的に行われている。	利用者は散歩や買い物時、受診時の待合所で地域の人と挨拶を交わしたり会話をして交流している。散歩時には野菜や花、果物、魚などの差し入れがある。お大師参りや船祭り、敬老会、選挙に出かけている。隣接のデイサービスセンターのイベントに来訪している日本舞踊やキーボード演奏、歌などのボランティアの演技を見学している他、小学生が来訪してフラダンス披露や手紙をもらうなどの交流の場に参加している。法人の職員がデイサービスセンターで開くお茶会や生け花会に参加し、デイサービスセンターを利用している地域の人との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談の中で、訪問等機会を活かし地域貢献できるよう心掛けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価について職員ミーティングで実施の意義を周知し、書類を配布し記入してもらった。その内容を踏まえ管理者、計画作成担当者、リーダーで話し合っって自己評価をまとめている。	計画作成担当者が評価の意義について職員に説明し、評価をするための書類を配布して記入してもらっているが、ほとんどの職員が記入していない。自己評価は、管理者と計画作成担当者がまとめて作成している。前回の外部評価結果を受けて事業所独自の理念の作成をしているなど、できるところから改善に取り組んでいる。	・全職員が評価項目を理解しての自己評価への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域の方・地域包括支援センター職員・家族・職員での参加で2ヶ月に1回推進会議を行っており事業所の現状と報告をしている。気をつけるべき改善点等についても細かな話し合いと意見交換が行われている。	会議は2ヶ月に1回、30分程度開催している。事業所の現状や取り組みについて報告し、意見交換をしている。利用者に対する不適切な言葉づかいについての町職員の意見を受けて、管理者は職員を指導し、職員間で話し合ったり、研修をして改善に努めている。	・会議の記録の工夫 ・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様やご家族様の報告すべき事柄等、連絡相談させて頂いている。問題が生じた時は相談と指導を受けている。	町担当者とは、運営推進会議時に情報交換をしたり、電話や直接出向いて相談し助言を得ているなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をしたり、相談して助言を得るなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徹底した実践で身体拘束は行っていない。利用者様が安心して過ごせる、安全な環境づくりを大切に考えている。玄関の施錠はしておらず、見守りを常時行っている。	マニュアルがあり年1回法人研修で学び、職員は正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には職員と一緒に出かけて支援している。ドラッグロックについてはかかりつけ医と相談して対応している。不適切な言葉づかいについて、管理者は申し送り時や全体ミーティングで職員に注意している他、職員会議で勉強会をして、改善に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の立場になって接している。利用者様の気持ちになって接しており複数の職員でケアを行うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の熟知には達していないので、今後制度についての学びを深め必要な場面で活用できるようにしていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族等、十分に納得をした上で契約している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付時に記録、報告し苦情の受け止めはできている。申し送りや会議、朝礼等で話し合い反省できるようにしている。職員が情報を共有し、ご家族の要望に添えるよう努力している。	相談、苦情の受付体制や処理手続きについて、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時、電話等で家族からの意見や要望、苦情などを聞く機会を設けている。利用者の様子を伝えるコメントと利用者の写真を載せた便りを月1回送付している。個別のケアに関する要望にはその都度対応しているが、運営に反映させるまでの意見等は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングや朝のミーティングで意見、提案を出し検討、納得いく形で終了するように時間を掛けて行っている。	月1回の法人全体ミーティングや申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。他、日常の業務の中で数名の職員でミニミーティングをし、申し送りノートに記録して共有し管理者は把握している。テーブルの配置や利用者の居場所の変更、個人記録保管方法の変更、利用者の状態に合わせた勤務時間の変更など、職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務にやりがいを持って取り組めるように環境や配慮、整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを実践していく中で不十分であると判断した課題を挙げ、検討している。助言や指導を大切に受け止め、働きながら学べるように支援していきたい。	外部研修については職員に情報提供しているが、参加している職員はいない。法人研修は月1回、褥瘡について、嚥下のメカニズムについて、移乗介護について、身体拘束に対する考え方、ノロウイルスについて、排泄介助について、食事介助について、入浴介助について、接遇について、サルモレラ菌についてなどのテーマを決めて、職員が交替して講師を務めて行っている。新人職員は計画作成担当者が研修を行っている。	・外部研修に職員が参加できる機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島郡内や近くの市町村との交流を持ち、ケアマネ、利用者様を通じての交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の思いを親身に聞き、共感するよう心掛けている。信頼関係を築くようにしている。ニーズの把握に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、ご家族等と連絡を密にしてけるよう努力している。ご家族様との会話も積極的にするよう心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に沿ったプランは立てておりプランをもとにサービス支援を行っている。今後の声にも耳を傾けて進めていきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を楽しんでもらうための対応、優しさケアを最優先としている。利用者様の出来る可能なことは協力して行うようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族の不安を取り除くように連絡している。ご家族とは一緒に協力して利用者様を支えていきたいと思いますという気持ちでいつも接している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	人との交流が少なくなっているため、出来るだけ馴染みの人や場所との関係が途切れないう支援していきたい。施設内での人間関係を円滑にし大切にしていきたいと思う。	家族の面会、親戚の人や自宅近所の人、友人、知人などの来訪がある他、年賀状のやり取り、携帯電話の使用や電話の取次ぎなどの支援している。馴染みの訪問理美容院の利用や美容院への送迎、自宅に連れて行き庭の花摘みや小包の受け取りなどの支援をしている。家族の協力を得て、墓参り、通夜や葬儀、法事への出席、温泉や外食などの外出など、馴染みの人や場所との関係が途切れないうように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係が円滑にいくようアドバイス、声掛けを心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて利用しやすい状況を作っている。ケアへのサービスで又利用したいと思ってもらえる関係を大切にしたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を持つようにしているので聞き取れるような配慮を行っている。話を必ず聞くようにしておりコミュニケーションを大切にしている。	フェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日常の関わりの中で、利用者の様子や言葉、気づきなどを介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞いて職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント状況は利用者様本人やご家族からの聴取等で把握に努めている。日常の会話を通じて本人理解に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動や行動の観察を通じて現状の把握に努めている。希望を取り入れた過ごし方はできていると思う。工夫したやり方、過ごし方は促すようにしている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、看護師等のチームでモニタリングを行い作成するようにしている。今後の改善に繋がるのでモニタリングや会議を増やしていきたいと思う。	利用者の思いや家族の意向、かかりつけ医や訪問看護師の意見などを参考にして、担当者会議で話し合っって介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施している。期間に応じて見直しをしている他、利用者の状態が変化した場合はその都度話し合っって見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの時間を決め、確実に内容を申し送っている。利用者様のきめ細かい思いや状況を申し送り、情報を共有することが出来、内容も充実している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望に沿って取り組んでいる。日々の生活が単調なものにならず、楽しみが持てるよう変化のあるケアも心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域全体の安全性の高さにより安心した生活は送れていると思う		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけの病院に通院するようにしている。医師との連携、連絡を継続していきたい。今後も医師からの説明とケアのアドバイスを大切に守っていきたい。	利用者それぞれのかかりつけ医があり、事業所で受診の支援をしている。受診の結果は電話や面会時に家族に伝えている。他科受診等、家族が受診支援をする場合は受診連絡票で利用者の情報を医師に伝え、受診結果などは医師が受診連絡票に記入して事業所に伝えている。緊急時や夜間のかかりつけ医や法人の訪問看護師と連携を図って対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	引き継ぎ等で情報を伝えている。報告、情報等的確に伝えられるよう必ず通院時にメモして職員に通知している。スタッフは看護職員への報告、連絡、相談を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には経過や症状の他にこれまでの生活ぶりなど詳しく伝えるようにしている。また、退院の際には医師や看護師、地域連携室の職員の方との情報交換を密に行っており、対応の仕方など相談している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実践例がまだないので、希望等あればご本人やご家族の希望を取り入れ、事業所として出来ることを検討し取り組んでいきたい。	重度化や終末期に向けた指針があり、契約時に家族に説明し同意書をもらっている。実際に重度化した場合には、その都度かかりつけ医や法人の訪問看護師、家族等と話し合い、入院や移設も含めて方針を決めて共有し支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月1ミーティングの際に急変時の対応について研修を行っている。全職員が応急手当の方法やスキルを向上させる為今後も研修を重ねていきたい。歩行の見守りや服薬確認等日々の業務にも職員間で声を掛け合っ事故防止に努めている。	事故ヒヤリハット報告書があるが、記録は十分とは言えず、一人ひとりの事故防止に活かされているとは言えない。誤嚥について日常業務の中で行うミニミーティングで話し合い、利用者にあった食事形態の見直しをしている。法人看護師による褥瘡処置や誤嚥時のタッピング法の研修、ノロウイルスの吐物処理の訓練実施の他、消防署の協力を得て心肺蘇生について研修しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故やヒヤリハットの記録とファイリングの工夫 ・一人ひとりの事故防止の取り組み ・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方に声掛けをし、消防訓練を実施した。今後も事故のない体制づくり災害時の避難訓練の実施を行っていきたい。	法人施設合同で年2回、昼夜間想定で通報避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署の協力を得て実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合った対応に心掛けている。個性を考えた対応や、やさしく丁寧な言葉かけに努めている。	法人研修で接遇について学んでいる他、不適切な言葉かけをしないようミーティングの中で話し合い、人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。個人記録は鍵のかかる場所に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中のADLへの働きかけが常に必要なのでその中での希望を見出していく努力を継続していきたいと思う。どのようにしたいのかご本人の意見をお聞きし対応するよう心掛けています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に出来るだけ沿うようにしている。ゆっくりと時間をかけて対応していく必要があるので気をつけていきたい。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の乱れや爪切りなど職員全員で支援している。フェイスクケアチェックを実施している。洋服の組み合わせなど一緒に考えながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝ってもらえる方、意欲的に希望される方に手伝ってもらっている。職員は食事の輪に入り一緒に食事を楽しむようにしている。	食事は、管理者が利用者の希望や好みを取り入れた献立をつくり、法人の畑で採れた野菜、地域の人からの差し入れの野菜や魚、果物など新鮮で旬な食材を使用して三食とも法人の厨房で調理したものを提供している。希望により主食をご飯からパンに変更している。品数が多く、食器に工夫して見た目からもおいしく食べられるように、栄養バランスが取れるようにしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、職員は弁当持参で一緒に食事をしている。利用者と職員と一緒にたこ焼きづくりをしたり、ドライブで利用者のなじみの蕎麦店で食事をする個別支援をしている他、弁当を買って戸外で食事をしたり、利用者数名での外食や喫茶、利用者と家族、職員が参加するバーベキュー大会、誕生日会、家族との外食など利用者が食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面でのバランスは充分とれており摂取量も良好である。病状に応じて量や形状も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄、声掛けや介助で施行、状況に応じてうがいも実施して頂いている。表の記入も行っており忘れる事が無いようにしている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助の方は特に注意している。個別支援として対応できている。失禁のある方への対応は特に気を使っている。自尊心を大切に、優しい促しと誘導に努めている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて声かけや誘導でトイレでの排泄ができるよう自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く取り入れ、果物も毎日摂取しておられる。水分補給にも留意し便秘にならないよう心掛けている。体操の時間を必ず取り入れて便秘対策で動いて頂けるように配慮している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けや一部介助での入浴が実施できている。温度調整や衣類の選別に気をつけている。拒否あれば日にちを変えるか時間をずらしている。気持ちが良かったと思って頂ける入浴支援に努めている。	入浴は土日を除く毎日、9時30分から11時までと13時30分から14時30分まで可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。ゆず湯や入浴剤を使用して色や香りを楽しめるようにしている。利用者の状態に応じて、清拭やシャワー浴、部分浴などで対応している。入浴したくない利用者には、時間帯を変えたり職員の交替や言葉かけに工夫して、入浴できるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にて様子観察、昼寝の実施など見守りで対応している。個人の希望を大切にしながら本人のペースで休息がとれるよう配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認、認知症の利用者様には手に薬をのせて確実に服用できたかまでの確認をしている。安心した状況が保たれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に活躍できる場面が見出せるよう、出来ることを手伝って頂いたりしている。パン屋を楽しみにしている方への声掛けや、好きなCDをかけたり気分転換が図られるよう心掛けている。	テレビ視聴(時代劇、相撲、野球)、DVD視聴(懐メロなどの歌番組)、新聞や雑誌、単行本、絵本などを読む、漢字ドリル、計算ドリル、新聞紙やチラシ広告でゴミ袋づくり、ぬり絵、折り紙、かるた、トランプ、しりとり、カラオケ、輪投げ、編み物、アクリルたわしづくり、法人主催の納涼祭で踊る、花壇の草取りや水やり、洗濯物たたみ、リンパマッサージ、温熱療法、筋力トレーニング、お茶会、生け花、買い物、散歩、誕生会など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1度買い物に出かけている。併設のデイサービス利用の方との交流はできているが外出も季節と機会を考えながら実施していきたい。	散歩や買い物、お大師参り、船祭り、桜の花見、海を見に行く、喫茶や外食、家族の協力を得て、墓参りや通夜、葬儀、法事への出席、温泉や外食など、外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来るだけ本人希望を聞いているが事業内事務での管理が望ましいので紛失のないように気をつけている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人宛の手紙は手渡し、電話は直接話して頂いている。手紙の代筆も行っている。ご家族には毎月お便りを送付しており近況報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整頓された環境づくりや快適に過ごせるよう温度管理にも留意している。利用者様が作られた作品や興味ある掲示物を設置している。思い思いに過ごせる居心地の良い空間作りに心掛けている。	共用空間には、自然の光が差し込んで明るく広々としており、窓際にはソファを配置して利用者がひなたぼっこできるようにしている。テレビやテーブル、椅子、ソファなどを配置し、利用者の居場所づくりをしている。温度や湿度、換気に配慮し、室内の清掃に気をつけて、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室、ユニット型であり問題はないと思うが集団生活の大切さも伝えていきたい。ホールでの過ごし方の配慮を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃、環境づくりに気を配り配慮している。好きなものを持ち込まれたり、自由性を大切にしている。家具や小物の配置等、ご本人やご家族の希望を尊重し、相談しながら対応している。	衣装かけ、三段ボックス、テレビ、洋服、本、置時計、生活用品など使い慣れたものや好みものを持ち込んで自宅や家族の写真を飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなくフローリングで問題はないと思う。混乱や怪我が無いよう表示等もしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームすこやか

作成日：平成 29 年 9 月 8 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生時の応急手当や初期対応について、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。 ・事故やヒヤリハット記録に改善の余地があり、事故防止につながる記録とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故対応時の応急手当や初期対応について、全職員が実践力を身につける。 ・事故防止につながる事故ヒヤリハット記録の内容を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な応急手当の方法や初期対応について演習を交えた研修を実施する。 ・記録の書き方についての研修を行い、個別指導を実施する。記録内容の分析を行い、事故防止につなげる。 	1年間
2	36 (16)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害訓練時の近隣住民の協力体制が構築できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民の協力を得て災害訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民へ書面を作成するとともに、直接配布し協力を得るよう依頼する。 	1年間
3	5 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議のメンバーが縮小傾向である。 ・会議記録に改善の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一名以上のメンバーの拡充を目指す。 ・会議録を見直し改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠員中の地域住民の出席者の開拓や、ご助言いただいた消防局の職員への出席依頼を促す。 ・様式の見直し、記入内容の見直しを行い、会議の動きが見えるよう改善を図る。 	1年間
4	14 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に職員が参加できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修へ職員が参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修の情報提供を職員に十分周知できる形で行う。研修の当該職員に、研修の書類を配布し参加を促す。 	1年間
5	4 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が評価項目を理解し自己評価へ取り組んでいるとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が評価項目を理解し自己評価へ取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書類配布前に説明会を開催し、書類内容について理解を深める。 ・前回の自己評価の内容を分析して、記載内容の不備なところは、具体的に説明していく。 	半年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。